# 簡単な算術

## —近畿再開発への試算—

大阪大学工学部土木工学科　伊　藤　冨　雄

大阪はまだ，東京のように住みにくくはないしかし，都市計画とか，地域開発とかいう仕事は，つねに時代に先行して行なうべきもので，手遅れになってからあわてても，労多くして効少しのうらみが残るに違いない．そのため，簡単な算術をまじえながら，つぎに一つの提案をこころみることにしたい．

かりに，大阪を中心として半径 50km の円をえがくと，高野山・吉野山・赤目・信楽・鞍馬・丹波篠山・三木をつらねる円周上に，当然のことながら，すばらしい住宅地の残されていることがわかる．そこで，大阪から一直線に，ノンストップの通勤用新幹線を建設し，その円周上のどこかに，大住宅都市を開発することにしよう．50km といえば，東海道新幹線の米原・岐阜羽島間の距離にほぼ匹敵するから，コダマ級のスピードをもってすれば，わずか20分ほどで，緑にかこまれた住いから，大阪の都心へ通勤できるはずである．しかし，こんな提案をすれば，建設費は？，通勤費は？と，たちまち反撃を食うことは見えすいている．けれども，そうあわてずに，つぎの算術をご覧いただきたい

まず，新住宅都市の規模を，列島改造論ではないが，人口25万人，6万戸とする。そして，1戸あたり1人が大阪へ通勤するとして，その6万人を運ぶのに何列車が必要かを計算しようしかし，乗車時間はわずか20分であるから，新幹線の1両に300人乗ることにしても，そう苦情は出ないと思われる．そうすれば，1列車16両編成で，

300人×16両＝4,800人

乗れるはずであり，結局

60,000人÷4,800人＝12.5列車

運転すればよいことになる．したがって，運転時隔10分とすれば，2時間10分で通勤輸送を完了するわけであって，やや窮屈ではあるが，ほとんど問題はないと考えられる．

つぎに，この新幹線をつくるのに，どのくらいの金が必要であろうか。最近開通した山陽新幹線の例からすれば，1mあたり120万円かければ十分と思われるので，延長が 50km ならば総額は

120万円/m×50km＝600億円

問題は，この600億円の調達方法である．しかし，答は簡単で，全額を6万戸の人々に，土地代として負担してもらえばよい．なぜなら，そうすれば1戸の割当が

600億円÷6万戸＝100万円/戸

となり，過重なように思われるが，宅地の価格は，造成費も含めて坪2万円程度と予想されるので，1区画平均80坪とすれば，100万円をかぶっても，土地代の総額は，わずか

2万円/坪×80坪＋100万円＝260万円

にすぎないからである。いいかえれば，坪あたり3万円少々であり，大阪へ20分で通勤可能な土地を，80坪260万円で売り出すとしたら，定めし希望者が殺到し，大騒ぎになることであろう．

以上の計算には，ごまかしも間違いもないはずである．しかも，われわれは，鼻歌まじりでも新幹線をつくることができるし，青空のもと小ブナの泳ぐ川べりに，王子様の住むような住宅をたてるのも，まことに簡単なことである．それならば，あとは政治の問題といわざるを得ない．そのうえ，大阪府は，全国に先がけて，千里・泉北の大団地をつくった実績を持っている．もし国が乗り出せば，できないはずはない極言するならば，国民のためにやる気があるかないかの問題であるように，思われてならないのである．